

公益社団法人 日本口腔インプラント学会 研修施設



東京形成歯科研究会 NEWS
& インプラント国際情報

平成 27 年 3 月吉日
No. 17

編 集 東京形成歯科研究会
企 画 オクデラメディカル
発行者 奥 寺 元

東京都北区王子 2-26-2-3F
TEL: 03 (3919) 5111
FAX: 03 (3919) 5114

E-mail: okudera @ carrot.ocn.ne.jp
http://www.tpdimplant.com/

世界観を持ったインプラント の情報交換の場として開催



国際学会・APAID 開催にあたり

APAI D 大会 副会長
東京形成歯科研究会 副会長

柳時悅

二〇一四年十一月二九日(土)
三〇日(日)の2日間にわたってアジア・パシフィックアカデミーインプラント口腔医学会がTKP、ガーデンシティ仙台にて開催されました。この学会は主催責任の東北口腔インプラント研究会と共に東京形成歯科研究所、ユニバーサルインプラント研究所、APPAID 国際会議、日本友好会議組織委員会の共催、また、公益社団法人仙台観光コンベンション協会の協力、東日本総合歯科臨床研修センター他の後援で行われました。

今回の学会は、国際インプラント治療オリンピックグランプリ大会、国際顎顔面口腔美容外科発表および認定医試験とグランプリ大会、ISBA 国際血液幹細胞臨床応用認定医試験とグランプリ大会を併設した大会としておこなわれました。

国際大会の名にふさわしく台湾、フィリピン、タイ、シンガポール、韓国、米国から多数の参加がありました。

この学会の前日夜に、ホテルメトロポリタン仙台にてウエルカムパーティーが行われました。

アジア各国からの参加者が大勢集まり、日本からの参加者と共に再会の挨拶や名刺交換、情報交換がなされ、また長旅の勞のねぎらいが行われ、良い雰囲気のもと終了しました。パーティー終了後、何組かにわかれ仙台の街にくりだして行ったグループもあり、さらに仙台を満喫した様子でした。

11月25日は9時より学会が開始されました。最初に大会長の古澤利武先生の挨拶があり、午前に、日本から3名、台湾から4名、タイから1名の講演がありました。

ランチョンセミナーをはさんで、午後に、日本から5名、台湾から1名、韓国から1名、の講演があり、たいへんレベルの高い内容で1日目が終了しました。

夜6時よりホテルメトロポリタン仙台にて、ガラ・パーティー及びグランプリ（インブラントオリンピック）、国際顎顔面口腔美容外科、国際血液・幹細胞臨床応用(ISBB)授与式が行われました。国際色豊かな大勢の参加者のもとにオーブニング（歌と

映像による）に始まり、古澤和武大会長の挨拶、小嶋榮一先生による歓迎の挨拶、Sebastian Tseng 先生（APAID 理事長）による乾杯が行われました。食事と飲み物による交歓が行われる中、いよいよ各グランプリの授与式がおこなわれ、各受賞者

にメダルと記念品が渡されました。また、各国からの代表者の挨拶もあり、記念撮影も行われ、和気あいあいと盛り上がるなかで、台湾の James C. Shu 先生による中締めが行われ、パーティーは終了しました。

この後、外国からの参加者と共にカラオケに繰り出し、大いに盛り上がり、1日目は終了しました。

11月30日は9時から始まり台湾の先生4名、日本から7名の講演がありました。

午後1時に大会長による閉会の辞をもって大会は終了しました。

2日間を通して日本をはじめ、各国の著名な大学教授やインブラント会の重鎮の講演も多く、また時代の最先端の講演も多くあり、参加者も充実した企画に満足をした様子でした。

学会終了後に貸し切りバスにて、東北大震災被災地慰問に行き、東松島市武道館にて震災復興支援音楽祭を行いました。

以上短い日程のなかで、充実

した。多くの成果を残せた大会でした。そして、各国の参加者との再会を約束しながら国際的にも充実した大会として記憶に残る大会になりました。

AP A I D in 仙台に参加して

海外レポート
奥寺 元
東京形成歯科研究会会長

□ 2024-06 (Asia Pacific Academy of Impul-

in Democracy in SENDAI JAPAN 2016 が、昨年の11月29日・12月1日の3日間、仙台のTOKAI Pガーデンシティ・仙台で開催された。

大会は、世界的に普及したインプラント医療についてアジアの国間たちと熱い議論を交わすのが目的で、仙台での開催は、同学会前身のICOAアジアグループによる25年前の開催以来となった。

古田新聞大登社のあきまに引き継ぎ行われたインブラントオリビック「調議」では、東京府成育資料研究会に関連する佐藤清二氏と月岡明之氏が「密接な政治的関係を用いた口説き回し」を以て、インブラントを適正埋入位置に配置するための手段の一考察でそれぞれ著した。また、台湾の元「Jung C の三代目」と話した。また、ゆめ氏は「インブラント治療に関する安全法」で、タイの JMS のジュニア・アフロウチ等が話し、インブラント臨床での埋入方法や材料で女性誌に求められる研究、車

美容外科とのコラボで講演



ガラパーティーでのアワード(グランプリ)授賞式の写真(左から2人目が筆者)

随および骨再生に関連に向けた新たな戦略」で、北海道大学名誉教授の久保本有徳氏が「タタリ」に結合して骨を呼び寄せる「フリンアラジン」タンパク質の構造と機能」で、東北大学教授の野崎正寛氏が、「歯周組織再生医療の最近の動向」と進歩」で、バイオインテグレーション学会理事長の青木秀希氏が「再生医療の限界と打開」で話した。

講演の様子

大会共催の国際血液・細胞遺伝学応用会議のISAB (The International Society of Blood Biomarkers and Stem Cell Clinical Application) からの講演もあり、日本での開業等科医師を中心にした組織のより一貫した応用の効果と今後の症例が多数発表された。一方、各セッションの講演者で

今後の臨床において、推計となる。吾人に対しランブリが授け与え、90日午後からは、東日本大震災で心なやみ編めていた海外参加ドクターらに対し被災地視察と仮設住宅避難生活にに対し合同企画の音楽時間、自らのものを披露した。

日本歯科新聞 2015年(平成27年)1月13日(火曜日) 第1864号(5)

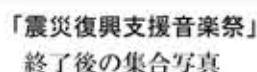
※無断転載・複写不可

基礎講座は「明徳堂再生と保存におけるインプラント」をテーマに、台湾のDr. 呂明徳（ミロ）氏と呂氏が「植体再建の上あご骨吸収と第3頰咬み合わせ不正をどうやって補強するか」で話し、筆者は「歯科領域と美容外科の新コラボレーション」と題して、インプラント臨床として審美と機能を含めた症例について説明した。

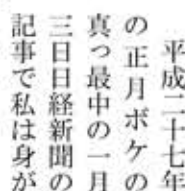
さらに、2日目の基礎講演は「関節血液・幹細胞臨床応用」をテーマに、台湾の国立陽明大学教授のヘンリー・チエン・ヤオス（氏）が「創傷治

議席の様子

左から、大井啓二氏（日本赤十字社）、中村孝一氏（日本赤十字社）、山田正幸氏（日本赤十字社）、山田正幸氏（日本赤十字社）、山田正幸氏（日本赤十字社）。



した温かい気持ちになりました。
それは宮城県東松島市の東日本大震災の津波被害で更地になった集落跡地や仮設住宅で三〇〇年の伝統行事の獅子舞が披露された記事で、そこには亡くなった人達の魂が残っているので鎮魂の為、また地域の人々の無病息災を願う獅子の踊りでした。

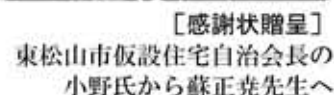


鯨岡昌寿

東松島市仮設住宅自治会長の小野氏が途中で同乗されて、さらに私達の心はあの3月十一日に思いをこめました。

大きな波が家々と人々を飲み込んだ事。御遺体が打ち寄せられていた事。それを探す家族の様子、御遺体があちこちにあった土地だから立小便する人がいないし、たとえ支援者でも立小便する事を許せないのが遺族の気持だ。

災害に乗じた略奪、泥棒などなかった事は誇りだし、今は人家がなくなつて広大な草原がふる里だけけれど、悲しみから立ち上がり、これまで以上に楽しい温かいふる里を作る意欲に燃えている今の様子などを伺いました。そして私達は鎮魂記念碑に心から復興をお祈りしたのです。仮設住宅に向かうバスに戻ると、義捐金を集めようと声が上がりが皆さんの支援の御金があるつまり、小野氏に受け取っていただきました。バスは矢本運動公園に着きました。仮設住宅そばの武道館では社協の方達と協力してパイプいすを並べたりして復興支援音楽祭の会場作りをして仮設に暮らす方達を待ちました。拍手の中にここにこと高齢熟年の方達約一〇〇人の方が入場。アメリカ人のジェームス父子の軽やかな歌声と軽妙なおしゃべりで幕開けです。日本人かと思うような父子の会話と歌に皆さん拍手。続いては岩手県からの佐藤姉妹の東北民謡で日本情緒に浸り懐かしいふるさとがまぶたに浮かびました。会場からの飛び入りの歌声まで飛び出して奥寺先生の英日語の司会で会場は笑顔にあふれました。アジアからの諸先生も歌い笑い、大喜びの御



様子でした。被災地の方達は感謝状を各代表に下さいました。蘇正堯先生（台湾国立陽明大学教授）、蘇郁弘先生（台北市A P I D 学会長）、蘇嘉俊先生（元台湾インブラント学会長）と奥寺会長が受領。今回は学術的な目的を満たした事は勿論、さらに災害を肌で実感できた事、その渦中にいる方達に笑顔を届けられた事、そして何よりも大きいのは海外の先生にも体験していただいた事で、その事が先生達を通して諸外国に伝わるでしょうし、この機会を通して震災への理解と共感が深まる事で海外の風評被害軽減に寄与できたとも感じました。終演後に知ったのは、民謡姉妹は奥寺夫人とそのお姉さまだったと聞きその若さと美しい声と御姿にびっくりでした。車中や会場での細やかで温かい配慮のある奥寺先生と御次男、ご家族総出で社会貢献なさる事には心から感謝しました。また、アジアの先生からの日本文化について細かい質問に電子辞書を持ちてお答えになった岩淵良幸先生、その存在がオーラを放しつつアジアの先生達を最後まであたたかく仙台駅まで送られた小嶋榮一先生御夫妻、手をつくした細やかな準備をして下さった今学術大会長の古澤利武先生、全体の進行を図りつつ穏やか細やかにアシストして下さった事務局押田様、皆様の御蔭でさわやかで充実した時間を過ごせました。心から感謝申し上げます。

国際学会・APAID
『インプラントにおける
エレクトロフォーミングの応用』発表



フイックアカデ
ト口腔医学会に
報告させていた

私は初めての参加となったが、25年ぶりに仙台の地で再び開催されると伺い、前回大会からの研究成果を聞けることを楽しみに参加した。特に今回はインプラント臨床での埋入方法や素材での講演会ではなく、次世代に向けての研究や臨床報告であったので、とても意義のあるものとなった。

今回、所属する東京形成歯科研究会から多数の発表者がいる中で、若輩者である私も発表させていただくこととなった。発表内容は、『インプラントにおけるエレクトロフォーミングの応用』である。インプラント治療には未だに解決されない分野があり、その中で上部構造のアクセスホール部の処置やネジ固定かせメント固定かには議論の余地があり、双方に一長一短がある。そこで今回、もう一つの選択として患者可撤式のエレクトロフォーミングを用いた方法を検証した。この方法はネジ固定やセメント固定の問題点に対して克服し、密着性に優れた新たな一つの方法と思われたので報

告した。

鯨岡齒科医院 鯨岡創一郎

ガンマットフリーでエレクトロフォーミングを行う技工操作は比較的容易である。エレクトロフォーミングを行ったインブラント上部構造は、その構造からアバットメントに食い込み摩

らないと思う。さらに、シルバラッカーの塗布量の違いで着脱に関する維持力に影響が出る事がわかってきているので、今後技工操作に関しても更なる研究が必要と考えている。

今回の発表内容は、まだまだ研究すべき内容ではあるが、このような機会を与えてくださった、組織委員長の奥寺元先生に感謝の言葉を述べて、Asia Pacific Academy of implant Dentistry in SENDAI JAPAN 二〇一四 (APAID・仙台) の発表報告とさせていた

Pacific Academy of Implant
Dentistry in SENDAI
JAPAN 〒101-84 (APAIID・
仙台) の発表報告とさせていた
だく。

●LIVEオ企业及び講演会のご案内●

2015年3月21日・22日、LIVEオベと講演会が開催されます。講演者及び会場が変更となりましたので、ご注意ください。
左記チラシは、変更後の内容となっております。

[illegible]

東京形成歯科研究会主催 APAID 学会活動報告

2014年11月29日(土)・30日(日)、仙台にて「APAID・アジアパシフィックアカデミーインプラント口腔医学会」が開催されました。東京形成歯科研究会より、以下の通り、10演題の口頭発表及び5演題のポスター発表が行われました。

■口頭発表

○インプラントオリンピック

11月29日(土) 9:15～9:40

発表演題：低侵襲な段階的治療法を用いた口腔再建の長期治療
著者名：佐藤 篤

○インプラントオリンピック

11月29日(土) 9:40～10:05

発表演題：インプラントを適正埋入位置に配置するための手技の一考察
著者名：月岡庸之

○基調講演「顎顔面再生と保存のインプラント」

11月29日(土) 13:00～13:30

発表演題：歯科領域と美容外科の新コラボレーション
著者名：奥寺 元

○グランプリ大会「国際顎顔面口腔美容外科」

11月29日(土) 14:45～15:05

発表演題：Facial control, CGFとHAインプラントの臨床
著者名：鈴木正史

○グランプリ大会「国際顎顔面口腔美容外科」

11月29日(土) 15:05～15:25

発表演題：上顎前歯欠損に対し、骨造成を伴ったインプラント治療により、長期経過良好な審美的顔貌を保全している症例
著者名：西山和彦

○グランプリ大会「国際顎顔面口腔美容外科」

11月29日(土) 15:25～15:45

発表演題：顎骨再建による顔面形態回復の測定
著者名：飯塚智彦、奥寺元、木下三博

○グランプリ大会「国際顎顔面口腔美容外科」

11月29日(土) 15:45～16:05

発表演題：インプラントにおけるエレクトロフォーミングの応用 審美・機能・予防に挑戦
著者名：鯨岡創一郎、奥寺元

○グランプリ大会(症例発表)「国際血液・幹細胞臨床応用」

11月30日(日) 11:25～11:40

発表演題：Zenograftの臨床評価
著者名：豊田寿久

○グランプリ大会(症例発表)「国際血液・幹細胞臨床応用」

11月30日(日) 11:55～12:10

発表演題：外傷にて歯根破折後インプラントにて審美的に修復した1例
著者名：川端秀男

○グランプリ大会(症例発表)「国際顎顔面口腔美容外科」

11月30日(日) 12:10～12:25

発表演題：上顎審美領域における自家骨移植を伴う歯科インプラント治療を行った1症例
著者名：矢守俊介

■ポスター発表

演題：他院中断インプラント難症例の治療

著者名：佐藤 篤(日本・東京形成歯科研究会)

演題：PRF(platelet-rich fibrin) application for soft tissue regeneration

著者名：青木健・奥寺 俊允・奥寺元(日本・東京形成歯科研究会)、日高敏郎

演題：It is PRP application and a non-application case of SINUS LIFT WITH VS With

著者名：大八木章好・新井真澄・奥寺元(日本・東京形成歯科研究会)

演題：STUDY ON CLINICAL APPLICATION OF PRP

- Effect of Clinical Approach on Soft Tissue Skin -

著者名：斎藤巖根・久保田滋・奥寺元(日本・東京形成歯科研究会)

演題：PRP(platelet-rich plasma) application for hard tissue regeneration of applying on facies recovery case

著者名：月岡庸之・矢守俊介・青木健・久保田滋・奥寺元・渡辺 泰典(日本・東京形成歯科研究会)

日本歯科放射線学会生涯研修会

歯科エックス線優良医 研修会を受講して

中延駅前歯科 岡 吉孝

先日、日本大学松戸歯学部付属病院にて歯科放射線学講座の金田教授より「基礎から学ぶインプラント画像診断」についての講義を受けてきました。



近年、インプラント

治療を希望する患者数は年々増加しており、歯科診療におけるインプラント治療の必要性が高まって来ています。インプラント術前検査はパノラマ×線検査や近年では×線CT検査が普及してきており、これら画像検査から得られる多くの情報はインプラント治療計画の立案や患者さんへのコンサルテーション、鑑別すべき他の疾患のスクリーニングなどに非常に重要です。しかしながら、歯科臨床医がインプラントの画像診断に関する基礎的な知識や正

常解剖的知識や正統的なCT撮り方、基本的なCT原理、二、パノラマ×線検査及び×線CT画像の正常解剖、三、インプラント治療に必要な×線CTによる画像診断のポイントや被曝の概念、及び実習にて、四、CT撮影から画像データへの取扱いやシミュレーションソフトによる治療計画の立案を実際に体験しインプラント治療の為に画像診断のスキルアップを図る。この研修を通じて、基本からインプラント治療に必要な画像診断の基礎知識を習得し、明日からの日常診療に役立て、国民の健康に寄与することが、この研修の趣旨であります。

実際の講義内容では、金田教授より一、臨床医が知っておくべき基本的なCT原理二、インプラント治療に必要な画像診断三、知っておくべきCT被曝の概念四、インプラントCT外部依頼のポイントとCTシミュレーションについて

金田教授より

一、臨床医が知っておくべき基本的なCT原理

二、インプラント治療に必要な画像診断

三、知っておくべきCT被曝の概念

四、インプラントCT外部依頼のポイントとCTシミュレーションについて

今井先生より

「Cone Beam CTの基本的原理及び特徴」

東京形成の会員でもある月岡先生から「インプラントシミュレーションについて」

午後からは、全身用MDCT及び歯科用CBCTの撮影実習、インプラントCTの読影実習

またインプラントシミュレーションソフトのi-CAT® Implant

を実際に使用した治療計画の立案を、学びました。朝夜まで盛りだくさんの内容でCTの原理、読影、解剖からインプラントシミュレーションまでかなり理解が深められたので満足しました。

最後は、「歯科×線優良医の検定試験」を受験しました。

久しぶりの試験に学生時代を思い出し懐かしかったです。

東京形成からも奥寺会長をはじめ多くの先生が受験されていました。

日曜日にも関わらず、朝から夜まで実習してくださった金田教授を始めとする放射線科の先生方、解かりやすく行き届いた講義と実習、非常に勉強になりました。ありがとうございます。

(追文)東京形成の受験者は全員合格の通知を頂きました。

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院

3 Dプリンター駆使

東大病院チームと
富士フイルム開発

当会顧問の高戸毅教授の
記事掲載ご案内

当会顧問の東大病院顎口腔外科・高戸毅教授の記事が産経新聞の一面トップに掲載されました。

東京大学医学部付属病院と富士フィルムなどが、立体的造形物を簡単に作製できる3Dプリンターと遺伝子工学を駆使し、人体に移植できる皮膚や骨、関節などを短時間で生産する技術を開発したことが2日、分かった。移植の難題となっている感染症の危険性を低く抑えられるのが特長。世界初の技術といい、5年後の実用化を目指している。

皮膚・関節を量産



研究チームは今回、皮膚や軟骨、骨などの基本構築の7割以上が、タンパク質の一種であるコラーゲンでできていることに着目。富士フイルムが遺伝子工学を駆使して開発したヒトのコラーゲン（リコンビナントペプチド）（RCP）を活用することで、感染経路リスクの低減に成功した。RCPに患者本人から取り出した幹細胞や細胞の増

患者の負担を減らす方法として、国内ではウシなど動物の組織とプラスチック素材を主な原料に3Dプリンターで移植用組織を作る技術がある。ただ、感染症のリスクがあり、組織が人体になじむ「同化」に2、3年はかかる。頭蓋骨や大腿骨といった強度の必要ない組織の作製も難しいとい

開発したのは、東大病院の口腔外科の高戸教授と慶応の研究者チーム。肝臓と膵臓の両方にも応用する考えで、体外で生成した健康な組織を患部に移植する「再生医療」を大きく前進させる可能性がある。

高戸教授によると、膵臓やけがて皮膚、骨、軟骨、関節の移植が必要な患者は国内で約2千人以上。現在は患者本人の患部以外から切除した組織を使うなどしており、体の負担が大

産業経済新聞（サンケイ）

2015年(平成27年)1月3日(土)

日刊 25876 号 (1)

※無断転載・複写不可

再生医療に詳しい埼玉医科大学形成外科・美容外科の中塚貴志教授は、今回の技術開発について「3Dプリンターが、再生医療に欠かせない医療機器に進化するための重要なステップになる」と話している。

買（成長因子）などを混ぜた培養液に改良した3Dプリンターに装填。C.T.ブリニャターに装填。C.T.ブリニャター（コンピュータ断層撮影装置）で得た体内組織のデータを活用して2～3時間で目的の組織を作製する患者ごとに違った形、大きさにすることも可能という。

高田教授は「感染症リスクの低下だけでなく、数カ月間の自然回生も可能」と説明する。動物実験では再生結果が良好で、

コラム

今般の日本国の法律で制定された、「再生医療等の安全性の確保に関する法律」で、我々が問題であると考えるのは、血液由来の組織成長因子及び組織治療材料 PRP (platelet rich plasma) および PRF (platelet-rich fibrin) を用いた外来口腔領域における再生医療についてであります。この治療法は、一〇〇年ほど前からすでに研究がされて、その科学的根拠のもとで、すでに世界的に臨床応用がされております。の治療法は、手術侵襲の緩和となり患者側にとって福音ともいえるものであります。同一患者の血液成分を利用してることから、安心安全な処置であり、しかも簡単な器材による製法が可能である点で意義深く医療貢献が高い技術であります。

また、本法律では輸血及び組織移植等が規制に入らず、大きな矛盾を感じえません。このたび、本法律が施行されることにより、この医療行為が第3種の再生医療等に分類されることになり、本医療行為を行う施設は事前に厚生労働大臣に提出して実施することが必要となります。これでは日常的治療の停滞をおこし臨床の発展を削ぐことになりかねません。

すでに省令が出されており、東京形成歯科研究会はコンプライアンスに則り会員に不利益無い様に準備中です。会員各位も下記の新法をご理解ください。

療が日本国の法の管理下に置かれることに成りました。

以下に「再生医療等の安全性の確保に関する法律」の一部を抜粋します。

「再生医療等の迅速かつ提供等図るため、再生医療等を提供しようとする者が講ずべき措置を明らかにすると共に特定細胞加工の製造の許可等の制定等を定める」

一、再生医療等の分類

再生医療等について、人の生命及び健康に与える影響の程度に応じ、「第1種再生医療等」、「第2種再生医療等」、「第3種再生医療等」に3分類して、それぞれ必要な手続を定める。

※分類は、細胞や投与方法等を総合的に勘案し、厚生科学審議会の意見を聴いて厚生労働省令で定めるが、以下の例を想定。第1種：iPS細胞等、第2種：体性幹細胞等、第3種：体細胞等。

二、再生医療等の提供にかかわる手続き

○ 第1種再生医療等提供計画について、

特定認定再生医療等委員会の意見を聴いた上で、厚生労働大臣に提出して実施。一定期間の実施制限期間を設け、その期間内に、厚生労働大臣が厚生科学安全性等について確認。安全性等の基準に適合していないときは、計画の変更を命令。

○ 第2種再生医療等提供計画について、

臣に提出して実施。

※ 特定認定再生医療等委員会は、特に高度な審査能力と第三者性を有するもの。

※ 第1種再生医療等、第2種再生医療等を提供する医療機関については、一定の施設・人員要件を課す。

三、適正な提供のための措置等

○ インフォームド・コンセント、個人情報保護のための措置等について定める。

○ 疾病等の発生は、厚生労働大臣へ報告、厚生労働大臣は、厚生科学審議会の意見を聴いて、必要な措置をとる。

○ 安全性確保等のため必要となときは、改善命令を実施。改善命令違反の場合は再生医療等の提供を制限。保健衛生上の危害の発生拡大防止のため必要となときは、再生医療等の提供の一時停止など応急措置を命令。

○ 厚生労働大臣は、定期的に再生医療等の実施状況について把握し、その概要について公表する。

四、特定細胞加工物の製造の許可等

○ 特定細胞加工物の製造を許可制(医療機関等の場合には届出)とし、医療機関が特定細胞加工物の製造を委託する場合には、許可等を受けたる者又は届出をした者に委託しなければならないこととする。



公益社団法人 日本口腔インプラント学会認定施設
東京形成歯科研究会 主催

公益社団法人日本口腔インプラント学会 認定講習会

2015年度 受講生募集

日本歯科新聞
日本歯科新聞
※無断転載・複写不可

受講期間 2015年4月～2016年3月
会場 オクデラメディカル
 インスティテュートセンター
 東京都北区王子2-26-2
 [交通] 京・メトロ [王子駅]より徒歩約5分
定員 20名
受講料 650,000円(消費税別)
 ※受講料に、教材費、資料費、会費が別添付

 〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクテラビルズ 3F オクテラメディカル内 公益社団法人 日本口腔インプラント学会認定施設 東京形成歯科研究会
 TEL 03-3919-5111 FAX 03-3919-5114 E-mail okudera@carrot.ocn.ne.jp URL <http://www.tndimplant.com/>

TEL: 03 3915 3111 FAX: 03 3915 3114 krakauer@cam.ac.uk <http://www.pamplank.com/>